

このような議論が行われました。(内容を要約または省略している部分があります。詳しくはホームページをご覧ください)

- データベースに関しては過去に様々な議論があったが、今回は市民への情報発信と普及を目的に、当面、釧路市中央図書館を対象とし書籍資料を整理する。
- 過去の議論を確認するのにニュースレターが一番分かりやすかったが、ホームページから一つずつ確認するのは手間がかかった。一つのファイルになるだけで十分に役立つ。
- 図書館で文字情報での閲覧だけでなく、先ほどの動画の活用や観光協会と連携するなど、コンテンツを整理して地域や全国の方にも見て頂けるような事を考えてもいいのでは。
- 釧路から遠いところにいると、釧路湿原の情報は届いてこない。テレビで紹介されても一過性のものである。例えば全国にある環境省の事務所でも各国立公園を紹介するパンフレットを置いたりして、釧路湿原を紹介できるコンテンツや広いネットワークをもって広報を行う事が必要ではないか。
- 希望される方へコンテンツを届ける仕組みができるよう努力したい。

●委員長 ○委員

再生普及小委員会の詳しい議事の内容および会議資料はホームページでご覧いただけます。

<https://www.kushiro-wanda.com/kushiro-database01/再生普及小委員会>



第36回 再生普及小委員会 出席者名簿 (敬称略、五十音順)

個人 [10名]

- 伊藤 毅 [上智大学]
- 君塚 孝一 [自然文化創舎]
- 清水 信彦
- 新庄 久志 [釧路国際ウェットランドセンター技術委員長 (環境ファシリテーター)]
- 高橋 忠一
- 蛭田 真一
- 矢吹 哲夫 [北星学園大学]
- 山本 太郎 [一般財団法人北海道河川財団]
- 吉中 厚裕 [酪農学園大学]
- 渡邊 剛弘 [上智大学]

団体 [8団体]

- 釧路観光連盟 [専務理事 / 長沼 大平]
- 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [代表幹事 / 芳賀 孝朋]
- 釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局次長 元岡 直子]

団体 [つづき]

- 公益財団法人北海道環境財団 [環境教育課長 / 山本 泰志]
- こどもエコクラブくしろ [近藤 一燈美]
- 特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所 [研究員 小林 恒平]
- 特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]
- 国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム [上席研究員 / 巖倉 啓子]

関係行政機関 [5機関]

- 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長 / 池田 共実]
- 環境省 釧路自然環境事務所 [国立公園企画官 / 松尾 浩司]
- 林野庁 北海道森林管理局 [釧路湿原森林ふれあい推進センター所長 / 川淵 義昭]
- 北海道 釧路総合振興局 [環境生活課 専門主任 曾我 浩二]
- 釧路市 [環境保全課 課長補佐 元岡 直子]

資料の公開方法

各委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページで公開しています。
<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend000003ppq.html>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会運営事務局
[TEL] 0154-23-1353 [FAX] 0154-24-6839

※再生普及小委員会担当事務局: 環境省釧路自然環境事務所
[TEL] 0154-32-7500 [FAX] 0154-32-7575



釧路湿原
自然再生
協議会

再生普及小委員会
ニュースレター

REGENERATION
SPREAD
SUB COMMITTEE
NEWS LETTER

Vol. 36

発行日: 令和3年3月16日

編集・発行: 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

令和3年2月19日(金)「第36回 再生普及小委員会」が開催されました。

開催概要

小委員会には個人10名、団体8団体、関係行政機関5機関が出席しました。今回は、オンライン(Zoom)開催と併用して行われ、再生普及小委員会の活動報告及び湿原の保全や再生に係る情報発信の拡充について議論が行われました。



第36回 再生普及小委員会 開催状況

再生普及小委員会は、自然再生事業全体をとおして市民参加や環境教育を進めて行く取組の立案や推進方策を協議する場として設置されており、「再生普及行動計画」に基づき、再生普及行動計画オフィス(環境省釧路自然環境事務所)が主体となって取組を進めています。【構成員】71名(個人31名、25団体、関係行政機関10機関、オブザーバー5団体)

このようなことが話し合われました。

再生普及小委員会の活動報告

前回の小委員会(令和2年10月)以降の取組の報告が行われました。

1 ワーキンググループ等の開催

自然再生の普及と環境教育・市民参加の促進のため、本小委員会とは別に2つの会合を開催し議論を行っています。
以下の会議について概要が報告されました。

- 第12回 再生普及推進のための連携チーム会合 (構成員: 委員長、副委員長、協議会事務局等) 令和3年1月 オンライン(Zoom) 参加8名
- 第12回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ (構成員: 委員長、教育委員会、学校教員等) 令和3年2月 オンライン(Zoom) 参加11名



第12回再生普及推進のための連携チーム会合オンライン開催状況

2 ワンダグリンド・プロジェクトの推進

釧路湿原に関わる参加の輪を広げていく取組で、平成17年度から行っています。事務局では、地域で行われている様々な活動や人々を「釧路湿原の応援団」として紹介するとともに、参加者と連携した活動を行っています。

本プロジェクト参加者(65団体・個人、連携校4校、広報支援8施設)の取組、各事務局による現地見学会等の取組が報告されました。

- 第25回フィールドワークショップ (案内: 新庄久志氏) 1.3%のミズゴケ湿原へ! 令和2年10月31日(鶴居村温根内) 参加10名
- 第26回フィールドワークショップ (案内: 新庄久志氏) 厳寒の温根内川を訪ねて“冬の川の行方を探そう” 令和3年2月9日(鶴居村温根内) 参加6名



～市民講座の様子が動画で紹介されました～

釧路湿原ラムサール条約登録40周年記念 市民講座 「地域の宝は地球の宝! 釧路湿原の「すごい!」を体験しよう」

新しい取組として令和2年9月、10月に開催された市民講座の様子が、再生普及小委員会出席者に動画で紹介されました。



3 情報発信・普及活動

WEBサイトやニュースレターの配信、パネル展などを通して、自然再生事業や学校支援の取組、ワンダグリнда・プロジェクト参加者の取組について紹介しています。WEB等による情報発信の取組、パネル展・行事について概要が報告されました。

・WEB等による情報発信

- 「みんなで進める!釧路湿原の自然再生:再生普及小委員会のHP(kushiro-wanda.com)」
- 「きづく わかる まもる 釧路湿原:学校支援関係HP(kushiro-ee.jp)」
- 「ワンダグリнда☆ニュース」:メールニュース ※希望者に月2回配信

・イベント・パネル展の開催

- 小学5年生がみつめた猛禽が舞う空 ~僕にできること。伝えたいこと。
[期間]令和2年7月13日(水)から
[場所]温根内ビジターセンター
[内容]ワンダグリнда登録者が作成した猛禽新聞15点の展示
- ビジターセンター展示「アイヌ民族と植物」
[期間]令和3年2月3日(水)から
[場所]温根内ビジターセンター
[内容]アイヌ民族が生活必需品としていた植物について紹介
[協力]タクッパ(ワンダグリнда登録者)



「きづくわかるまもる 釧路湿原」学校支援HP



猛禽新聞の展示
(温根内ビジターセンター)

- シルバーシティときわ台ヒルズ「釧路湿原自然再生パネル展」への協力
[期間]令和3年2月1日(月)~2月28日(日)
[内容]釧路湿原自然再生事業紹介パネルの貸し出し

4 湿原学習のための学校支援ワーキンググループの取組課題の推進(学校との連携・学習のサポート)

釧路湿原を題材とした学校での取組を推進する目的から、平成27年より「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」を設置し、以下の取組課題の推進を目指して、学校と連携した取組や研修講座、授業支援を行っています。

取組課題1「湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進」

「釧路湿原流域」でフィールド学習ができる場所の紹介



釧路湿原流域のフィールド情報マップより
(kushiro-ee.jp/fieldmap/)

釧路湿原周辺の川や丘陵地を含め、フィールド学習ができる場所や実践例を紹介。令和2年度中に2箇所(塘路湖周辺フィールド、シルトロ湖周辺フィールド)の情報を追加予定。



「フィールド情報マップ」

映像資料等のとりまとめ、連携校への提供

・フィールド学習のコーディネートを行った3校(釧路市立中央小学校、釧路町立別保小学校、標茶町立標茶小学校)に、学習当日の記録映像を教材として各学校へ提供。
・写真、動画を含む学習内容に関連した資料の提供。



取組課題2「自然再生の学校教育への活用促進」

授業支援による自然再生事業の紹介

授業支援の中で、題材として自然再生事業の取組の紹介等を実施。

取組課題3「学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及」

教員研修講座(H21年度より実施)



オンラインによる教員研修講座を2回実施。
・タンチョウレスキューの現場から~釧路市動物園の取組み~
[日時]令和3年1月23日
[講師]飯間裕子氏 [参加者]11名
・生き物たちの命をつなぐ知恵~冬を耐え忍ぶ生き物を探そう!
[日時]令和3年2月11日
[講師]照井滋晴氏 [参加者]14名

授業支援の実施



児童の学習テーマに係る質疑の対応やレクチャーを標茶町立標茶小学校、釧路町立別保小学校において実施。

釧路湿原流域環境を題材とした学びのプロセスの支援、実践等の発表の場作り



(※)研究発表ボードについてはこちら
https://www.kushiro-ee.jp/kenpatu_boad/index.html



《発表会等における助言》

研究発表ボードを活用した学習に取り組む学校を対象に、4校の小学校に訪問やオンラインを併用し、発表に対し助言等を実施。

《釧路湿原サイエンスフェア》(H30年度より実施)

研究発表ボードを学習に活用している学校よりボードの一部を借用し、5つの施設で展示を実施。

このような議論が行われました。(内容を要約または省略している部分があります。詳しくはホームページをご覧ください)

- 市民参加は初参加の方も多く、湿原の仕組みや再生事業実施の必要性を理解いただく有効な機会であると感じた。
- できるだけ多くの方に経験してもらいたいが、参加者数はどのように決めているのか。
- コロナ対策のため、座学の会場や現地案内の都合から人数上限を決めさせていただいた。
- 講座を受講された方が、今後更に活動を展開して広げていくにはどうすればいいか。
- その場限りの体験に終わらず、再生活動や保全活動に加わったり何か活動を開始する道筋ができるかどうか。スピード感はないが講座参加者がワンダグリндаに登録してくれたら、一人、二人と少しずつでも自身の意思で活動に参加されることが続くと良いと考える。
- 今の世代の大学生はあまり環境や自然との触れあいができていないが、身近な環境を活かして小学生から高校までの過程で環境教育が行われていることは大変意義がある。

●委員長 ○委員 ■事務局

湿原の保全や再生に係る情報発信の拡充について

第4期再生普及行動計画に基づく取組について、進捗の報告と今後の方針が説明されました。

1 地域の図書館や博物館における資料の整備について

令和3年度にかけて、釧路市中央図書館に関連資料を収蔵予定。また、図書館と共催で企画展等も検討していきます。

● 収蔵予定資料

- ・各事業地実施計画書(最新版)
- ・各小委員会発行ニュースレター(No.1~最新号まで)
- ・自然再生事業および釧路湿原、流域河川に係るパンフレット、リーフレット等
- ・小委員会配布資料

2 湿原の保全や再生に係る情報発信の拡充

● 各小委員会発行ニュースレターを活用した情報発信

- ・令和3年度よりワンダグリнда・プロジェクト登録者にも配布を拡充
- ・より効果的な情報発信となるよう、紙面内容の検討及び見直しを随時実施

